

2014 年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト実施報告 International Intercultural Mural Exchange [IIME]

ジャパンアートマイル (JAM)

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」(アートマイル)は文部科学省と外務省の後援事業としてこれまでに 57 の国・地域から 28,822 名の児童生徒が参加している国際協働学習プログラムです。JAM は 2014 年 11 月に名古屋市と岡山市で開催された ESD ユネスコ世界会議に参加して「持続可能な発展のための教育(ESD)」としてアートマイルの発表・展示を行い、鈴木寛文部科学省大臣補佐官をパネリストに迎えて未来を開く次世代育成についてパネルディスカッションを行いました。2014 年度プロジェクトの実施報告及び ESD ユネスコ世界会議の成果を報告します。

1 国内・海外の参加校

2014 年度「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」には 28 の国・地域からのべ 106 校 5,220 名の児童生徒が参加しました。

【参加国・地域】28 の国と地域

アメリカ、アラブ首長国連邦、イラン、インドネシア、ウガンダ、エクアドル、オーストラリア、オマーン、カナダ、キルギス、ケニア、ジンバブエ、スリランカ、セネガル、タイ、台湾、タンザニア、中国、ニカラグア、日本、ネパール、パキスタン、フィリピン、ブラ

ンス、メキシコ、リトアニア、ルワンダ、ロシア

【参加都道府県】17 都道府県

北海道、群馬県、山形県、埼玉県、東京都、神奈川県、石川県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、香川県、福岡県、熊本県

【参加校・参加生徒】

参加校:延べ 106 校 (日本 53 校、海外 53 校)

参加生徒数:5,220 名(日本 2,070 名・海外 3,150 名)

【日本参加校・海外参加校国・地域別一覧】

NO	国・地域	日 本 参 加 校	海 外 参 加 校
1	Australia	愛知県 豊田市立浄水北小学校	Harvest Christian School
2	Canada	石川県 内灘町立清湖小学校	Fieldcrest Elementary School
3		熊本県 熊本市立五福小学校	Fieldcrest Elementary School
4		石川県 金沢市立額小学校	Edward Johnson Public School
5		山形県 尾花沢市立常盤中学校	Millidgeville North School
6		東京都 都立田柄高等学校	Lincoln M. Alexander Secondary School
7		神奈川県 星槎国際高等学校	Nipigon-Red Rock District High School
8	China	愛知県 東浦町立緒川小学校	Jinhua Binhong Primary School
9	Ecuador	群馬県 大泉町立西小学校	LEB Arejandro Sergio Bermeo
10	France	石川県 内灘町立清湖小学校	Ecole Honore de Balzac
11		石川県 金沢市立十一屋小学校	Collège de Taiohae
12		京都府 木津川市立木津南中学校	Collège Jean Lurçat
13	Indonesia	福岡県 北九州市立泉台小学校	SDN Lebak Bulus 02 Pagi
14		石川県 金沢市立小坂小学校	SDN Bubutan IV

15	Iran	石川県 金沢市立小坂小学校	Saba Middle School
16	Kenya	福岡県 大牟田市立平原小学校	St. Vitalis Nanga Primary School
17	Kyrgyzstan	北海道 海星学院高等学校	Ishenali Arabaev Atndag School
18	Lithuania	東京都 多摩市立東愛宕中学校	Silavotas Basic School In Prienai District
19	Mexico	石川県 七尾市立小丸山小学校	Comunidad Educativa Yaxunah
20		福岡県 大牟田市立吉野小学校	Francis Bacon School
21		兵庫県 神戸大学附属中等教育学校	Preparatoria Lomas Del Valle UAG
22		東京都 青山学院大学	Universidad Veracruzana
23	Nepal	静岡県 浜松学院中学校	Shree Rudrepipal Secondary School
24	Nicaragua	石川県 金沢市立四十万小学校	Escuela El Progreso
25	Oman	カタール ドーハ日本人学校	Shumoo' a Al-Marifa
26	Pakistan	石川県 金沢市立額小学校	Springfield Public School and College
27	Philippines	愛知県 名古屋市立愛知小学校	Arsenio H. Lacson Elementary School
28		石川県 金沢星稷大学	Mindanao Kokusai Daigaku
29	Russia	石川県 金沢市立四十万小学校	Volzhsky Military School
30		石川県 金沢市立小坂小学校	School 1471
31	Rwanda	兵庫県 Sherry 英語教室	Gahini Secondary School
32	Senegal	滋賀県 大津市立志賀中学校	CEM Martin Luther KING
33	Sri Lanka	香川県 観音寺市立観音寺小学校	Sabaragamuwa University
34	Taiwan	石川県 金沢市立米泉小学校	Wen Ya Elementary School
35		石川県 金沢市立米泉小学校	Wen Ya Elementary School
36		東京都 多摩市立南鶴牧小学校	Rixin Elementary School
37		石川県 金沢市立花園小学校	Jia-Nan Elementary School
38		熊本県 熊本市立五福小学校	Zhi-Qing Elementary School
39		兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Guei-ren Junior High School
40		兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Guei-ren Junior High School
41		兵庫県 神戸大学附属中等教育学校	Nan-Jung Junior High School
42		兵庫県 Sherry 英語教室	Chongming Elementary School
43	Tanzania	兵庫県 神戸大学附属中等教育学校	Kilakala Secondary School
44	Thailand	北海道 札幌市立札幌大通高等学校	Plearnpasa Language School
45	UAE	石川県 金沢市立額小学校	Dubai International Academy
46	Uganda	石川県 金沢市立小坂小学校	St.Mary's College Lacor
47		大阪府 寝屋川市立友呂岐中学校	Kijjabwemi Secondary School
48	USA	埼玉県 草加市立高砂小学校	ST. Pius X
49		石川県 七尾市立小丸山小学校	Van R. Butler Elementary School
50		東京都 渋谷区立松濤中学校	John Adams Middle School
51		大阪府 追手門学院大手前中学校	Scales Mound Community Unit District #211
52		岡山県 県立岡山一宮高等学校	Bergen County Technical High School
53	Zimbabwe	石川県 宝達志水町立樋川小学校	Helena Infant School

2 段階を追って進む国際協働学習

<1年間の学習活動の流れ>

4-5 月	参加申込期間
6 月	JAM より参加決定通知→海外校紹介
6-7 月	アートマイル導入・テーマ調べ
夏休み	(準備期間) 海外校とスケジュール調整・コミュニケーションツールのチェック
<海外校との国際協働学習スタート>	
9 月	自己紹介・学校紹介・地域紹介
10 月	テーマについて海外校と協働学習
11 月	絵の内容相談・構図と制作分担を決定
11 月	日本側の壁画制作→キャンパスの半分に
12 月	絵を描いて相手に送付
1 月	海外側の壁画制作→壁画完成→鑑賞→
2 月	日本校に作品を送付 日本側はこれまでの活動のまとめ
3 月	作品鑑賞と活動全体の振り返り

アートマイルの国際協働学習は「自己紹介」から「鑑賞と振り返り」まで段階を追って進みます。いつ、何をするのか、大枠が決まっているため、初めて取り組む教師でも見通しを持って行うことができます。

[6月～7月] 導入・テーマ調べ

6月にアートマイルの参加が決まると、児童生徒に海外校とアートマイルに取り組むことを伝え、世界の友だちと学び合い、一緒に壁画を制作することへの意識付けを行います。

6月～7月に ・英語の自己紹介カードを作成する ・学校紹介の写真を撮る ・ビデオを作成するなど、9月からスタートする国際協働学習の準備をします。海外校と一緒に学習したいテーマについて調べ学習も行います。

一学期に自己紹介や学校紹介の準備をしていた学校は、9月に良いスタートが切れて、海外校をうまくリードすることができました。学習テーマのまとめ・発表まで行っていた学校は、10月にテーマについて海外校と協働学習を行う際に、自分たちの情報をしっかり相手に伝えることができました。

[夏休み] 準備期間

一学期に自己紹介やテーマ調べの準備ができなかった学校では、自己紹介カード作成、相手国・地域調べ、テーマ調べを夏休みの宿題として出している学校が多く見られました。

教師は夏休み中に相手の教師とお互いの学校スケジュールに配慮しながら共通のスケジュールシートを作成します。また、双方向のコミュニケーションツールであるフォーラムを使う練習をします。

夏休中に教師同士が信頼関係を築いたところは、その後の活動がスムーズに進み、たとえ途中でどちらかの活動が遅れることがあっても、調整し合って噛み合う活動を続けることができました。

[9月]「自己紹介」

海外校との国際協働学習はJAMが提供するフォーラムを使って行います。フォーラムは非公開で、ID とパスワードで守られているため、安心して児童生徒の名前や写真を載せることができます。相手の顔が見えることで相手を身近に感じ、協働学習へのモチベーションが上がります。

海外校との時差が少ないところは、スカイプを使って自己紹介をするところが多くありました。自己紹介で直に顔を合わせて話をすると、早い段階で相手意識が強まり、「次はもっと自分たちのことを伝えたい。もっと相手のことを知りたい」とその後の活動が意欲的に行われていました。

時差が大きくてテレビ会議を行うことが難しいところは、ビデオレターを作成してフォーラムにアップする学校が増えました。ビデオ制作は時間をかけて準備することができるので、オリジナリティーに富むメッセージを作ることができます。海外校のビデオレターには、場面設定がユニークだったり、楽し



い音楽を入れたりとインパクトのあるものが多く、日本側も刺激を受けていました。

〔10月〕「テーマの協働学習」

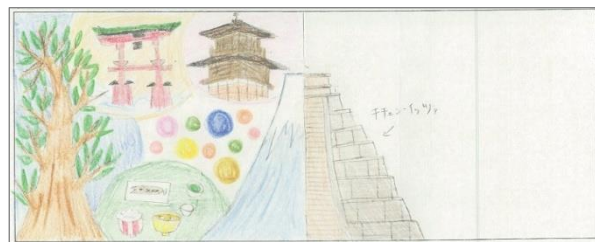
文化・環境・平和・食・夢など海外校と合意して決めたテーマについて、自分たちが学習したことをフォーラムにアップします。相手がいることで自分たちのことを違う視点で見直すことができ、新たな気付きがたくさん生まれます。

フォーラムでのやりとりが活発なところほどお互いの理解が深まり、協働学習を深められていました。フォーラムでのやりとりが少ないペアの中には仲間意識があまり深まらず、テーマ学習も自分たちのことを伝えただけで終わっていたところがありました。



〔11月〕「構図決め」

11月に学習したことをどのような絵にするのかをフォーラムで相談します。多くの学校では構図や制作分担について日本側からいくつかの案を示して海外校に選んでもらって決定していました。



〔11月～12月〕「壁画制作」

日本の学校は11月～12月にキャンパスの半分

に絵を描いて海外校に送ります。

絵を描いているところを写真に撮ってフォーラムにアップします。自分たちが絵を描いている場面を見せることで制作の楽しさを相手と共有することができるだけでなく、相手側はその絵の続きに自分たちはどういう絵を描いたらいいかイメージを膨らませることができます。



〔1月～2月〕海外側：壁画制作／日本側：まとめ

海外側は1月～2月にあとの半分の絵を描いて壁画を完成させます。日本側が先に制作過程の写真をたくさん載せていたところほど海外側もたくさん写真を載せてくれ、絵が完成していく様子を一緒に楽しんでいました。

日本側は、活動がないこの時期に、これまでの学習活動のまとめを行いました。



〔3月〕「鑑賞と振り返り」

完成した壁画が日本に届いたら作品の鑑賞を行います。絵の感想やこれまでの交流の感想をフォーラムにアップします。テレビ会議で相手と一緒に絵の鑑賞と振り返りをしたところもあります。



3 学校支援

(1) JAM の支援

JAM は、海外校を日本の学校に紹介するだけでなく、教師専用のメーリングリストを立ち上げて進捗状況に合わせて事前に次の段階の学習活動のポイント・注意事項・参考例を伝え、フォーラムの活用状況をウォッチングして相手とのやりとりが滞っている学校があるとフォローし、進捗レポートの質問コーナーにそのときに困っていることが書かれていると迅速に対応するなど、プロジェクトの全期間を通して進捗管理を担当するスタッフが参加校の教師をサポートしました。それらのサポートを適時、迅速に、きめ細かく行うことで、全ての学校が無事プロジェクトを完結することができました。

(2) JICA の支援

2014 年度も JICA 本部から全世界の JICA 事務所へアートマイルへの参加を推奨する公電が出され、9 途上国から 9 校の参加がありました。

＜JICA が支援した国＞

ウガンダ・エクアドル・キルギス・ケニア・スリランカ・
タンザニア・ニカラグア・ネパール・ルワンダ

JICA の支援を受けている学校では青年海外協力隊がアートマイル活動をサポートしてくれます。日本の教師は相手校とのやりとりを隊員を通じて日本語で行うことができるため、意思疎通の心配をすることなくプロジェクトを進めることができました。

ウガンダでは、JICA 主催のアートマイル展がウガンダ国立美術館で開催され、本年度参加した 2 校の作品が展示されました。開会式には 2 校の生徒

代表が招待され、生まれ育った地域から出たことのない生徒たちにとって大変貴重な国内交流の場となったということです。



4 成果

成果として「児童生徒の意識の変化」と「教師の意識の変化」を紹介します。

(1) 児童生徒の意識の変化

- ・それまで世界の国・地域の一つであった国・地域が児童にとって特別な国・地域となりました。
- ・英語学習への意欲が劇的に変化しました。
- ・国・地域を超えて協力して一つのものを作り上げる楽しさや喜び、達成感を実感することができました。
- ・存在さえ知らなかった国・地域について知ることができ、そこで暮らす同世代の仲間と交流できたことで、子どもたちはお互いを知り、認め合うことの大切さ、楽しさを感じることができました。
- ・ルワンダの高校生が「将来自分がこの国の経済を発展させたい」という強い意志を持って勉強していることに驚き、「経済が発展している自分たち日本の高校生は彼らに比べて社会のことや国のことを何も考えていない」と自らを振り返っていました。
- ・日本と大きく違う環境でもたくましく生きている子供たちがいることを知り、自分たちも頑張ろうという思いを持つことができました。
- ・政府間では関係が良好といえなくても民間で良好な交流ができている国・地域があります。アートマイルの活動が真に国際親善につながることを学びました。

(2) 教師の意識の変化

- ・国際理解教育がこれほどまでに簡単でダイナミック

クに行えることに感銘を受けました。子ども自身が国際交流の最前線に立てることはすばらしいと思いました。

- ・平和についての意識が高まり、日本が世界からどう見られているのかを考えるようになり、生徒にもそのことを考えさせるようになりました。

- ・相手校からの返信には毎回、喜んだり、驚いたり、考えさせられました。教師と児童が国際交流を共に作り上げていくという意識で取り組みました。

- ・英語には自信がなかったけれども翻訳サイトなども活用しながら英語によるコミュニケーションに挑みました。何とかなるものだとし自信がつけました。

- ・海外とコミュニケーションをとっていくための手段として英語が必要であることを実感したので、外国語の授業の仕方を考えるようになりました。

- ・本活動は教師の教育力の向上に直結すると感じました。

- ・これからの世の中を生きていく子ども達は、日本の枠を飛び出し世界中のいろいろな考えをもつ人達と一緒に生きて行かざるを得ません。その入門としてアートマイルはぴったりでした。中東には今大変な時期を迎えている国・地域がありますが、生徒にはテレビや新聞の記事だけが事実だと思わず、実際に交流する中で感じたことを大切にしていって欲しいと思います。

(3)国際協働学習の目に見える成果

壁画は国際協働学習の目に見える成果です。2014年度の壁画より小中高校・大学の作品を一点ずつ紹介します。

<中国> 小学校



<台湾> 中学校



<アメリカ> 高校



<メキシコ> 大学



5 課題と対策

国際協働学習を成功させるために一番大切なことは教師間のコミュニケーションです。教師同士が密にコミュニケーションを取っていたペアは、双方のクラス間で信頼関係を築くことができおり、教え合い学び合いが深まって充実した協働学習が行われ、児童生徒が大きな達成感を味わっていました。

しかし、アンケートによると、日本の53校のうち3校の教師はメールを月に一度しか見ていませんでした。教師同士のやりとりが希薄なところは、自分たちの活動を十分相手に伝えていない、相手がフォーラムにアップした内容を自分のクラスで共有していないということになり、相手との繋がり感、共感が薄い活動となってしまったところがありました。

JAMでは進捗管理をする専任スタッフがフォーラムの活用状態を毎週ウォッチングして、やりとりが滞っている教師には何か困っていることはないか尋ね、相手の書き込みにはタイムリーに返事をするように、またこちらの様子をフォーラムにアップするように、英語翻訳も手伝いながらサポートしましたが、なかなか状況が変わらないところがありました。

フォーラムは国際協働学習の命綱です。フォーラムで双方向の学習を可視化することで臨場感のある協働学習を実現でき、事務局は問題の早期解決をお手伝いすることができます。今後もフォーラムの活用の徹底を参加教師に呼びかけていきたいと思っています。